

東北大サークルが全面協力

河北新報社でワークショップ

「三日月かぶと」 上手に折れたよ

3日発行の「こども新聞 週刊かほピヨンプレス」で紹介した三日月かぶとを作るワークショップが10日、仙台市青葉区の河北新報社で開かれました。

三日月かぶとは「こどもの日」に合わせ、河北新報社が東北大の折り紙サークル「ORUXE(オルゼ)」の協力を得て企画。仙台藩祖・伊達政宗のかぶとをモチーフにし

たデザインで、3日のこども新聞に折り線が入った展開図と折り方を掲載しました。ワークショップではオルゼ代表の平野裕大さん(19)と東北大工学部2年とメンバーの安倍太陽さん(19)と同日が講師を務め、親子連れなど31人が参加しました。

子どもたちもオルゼの2人の手本を見ながら器用に折り、三日月かぶとを完成させました。

仙台市国見小2年の岩佐拓磨さん(8)は「優しく教えてもらったので、自宅で作ったときより上手に折れました」と声を弾ませました。

平野さんは「自分たちが考えた作品を楽しんでもらえて良かったです」と話しました。会場では平野さんが制作したドラゴンやトラなどの折り紙作品も展示し、「母の日」に合わせてカーネーションの折り紙も作りました。

ぐらんあれ!

ワークショップに参加してくれた子どもたちが、自分で作った三日月かぶとをかぶり記念写真を撮りました。オルゼのお兄さんたちに教わって上手に折れたね!



親子連れに三日月かぶとの折り方を説明する安倍さん(右)



三日月かぶとの折り方を説明する平野さん



オルゼの平野さんが折った作品を眺める子どもたち。「1枚の紙でこんなふうに分れるの?」と驚いていました



ワークショップがあった10日は「母の日」。折り紙でカーネーションも作りました



みみいさん(9) 仙台市若林区



たくまさん(8) 仙台市青葉区



げんちゃん(5) 仙台市青葉区